

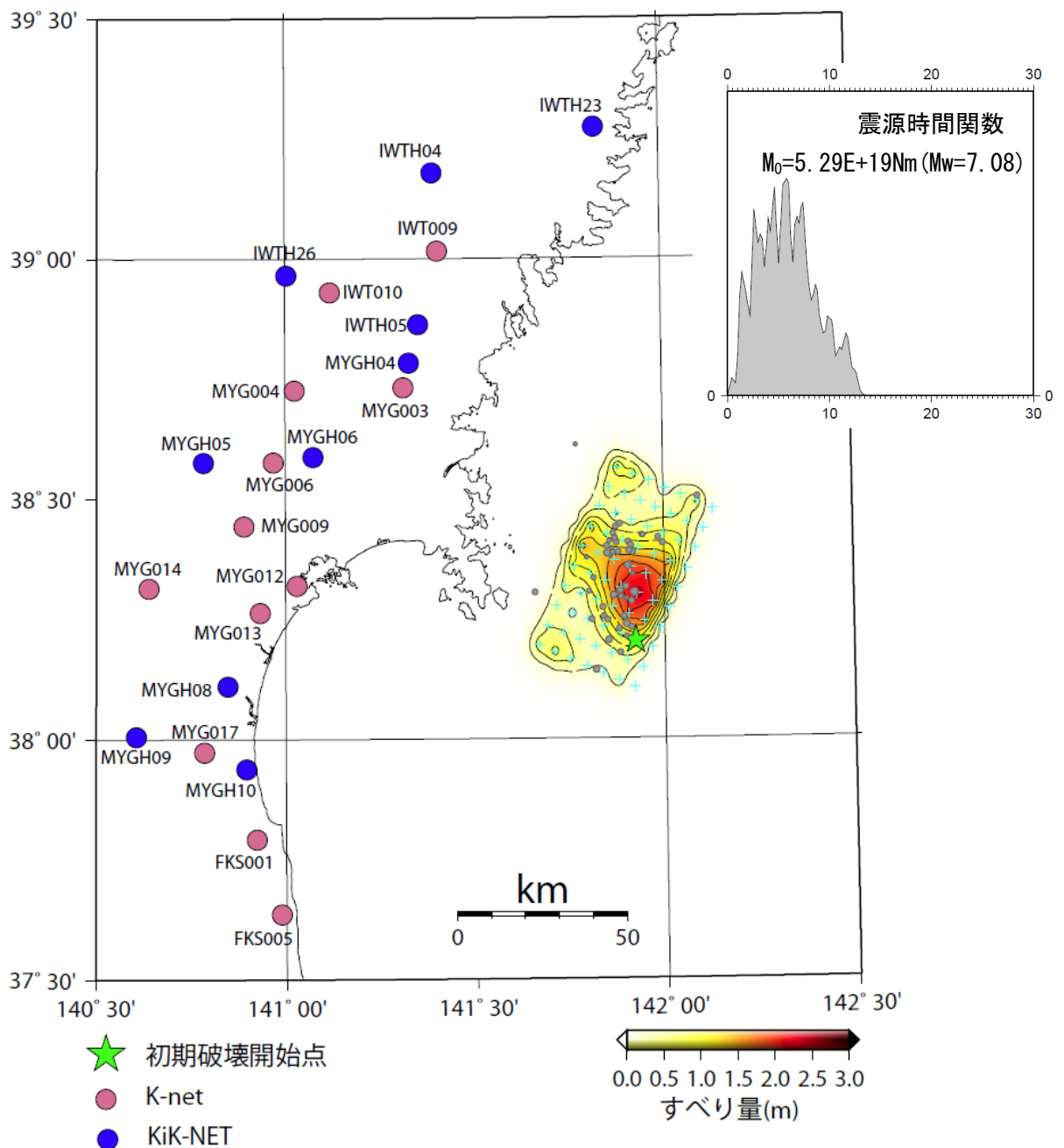
4月7日 宮城県沖の地震 — 近地強震波形による震源過程解析（暫定） —

2011年4月7日23時32分に宮城県沖で発生した $M_{JMA}7.2$ の地震について、国立研究開発法人防災科学技術研究所が展開する強震観測網（以下、K-NET）、基盤強震観測網（以下、KiK-net）の観測点の強震波形を用いて震源過程解析を行った。

破壊開始点は本震の一元化震源の位置（N38.2028°，E141.9237°，深さ65.7km）とした。断層面のパラメータは、気象庁CMT解の2つの断層面のうち、余震分布を参考に東傾斜である、走向24°，傾斜37°，すべり角87°とし、すべり角87°の片側45°の幅に収める拘束条件を与えた。

主な結果は以下のとおり。

- ・ 主なすべりは初期破壊開始点より北側の浅い部分にあり、主な破壊継続時間は約10秒間であった。
- ・ 最大のすべり量は約2.5mであり、モーメントマグニチュードは7.1であった。



・ 余震分布（2011/04/07 23:32～）

解析には国立研究開発法人防災科学技術研究所の K-NET・KiK-net の波形データを使用した。記して感謝します。

※ この解析結果は暫定であり、今後更新する可能性がある。

更新日：2011/07/21

更新日：2016/01/15

気象庁・気象研究所作成

観測波形（黒：0.05-0.2Hz）と理論波形（赤）の比較

